

関東学生卓球チームカップとは？

関東学生卓球連盟は、今年5月15日に創立80周年を迎えました。

これを記念して、新設された大会が「関東学生卓球チームカップ」です。

サッカーにリーグ戦（Jリーグ）とカップ戦（ナビスコ杯）があるように、関東学連において従来よりあるリーグ戦（関東学生リーグ）に加え、新たにカップ戦の団体戦を新設します。それが「チームカップ」です。

これは、次のような特徴がある大会となっています。

①最低3人で1チームを構成でき、1校から複数チームが出場できる団体戦です。

よって、3名以上の部員がいる大学は、ほとんど登録選手全員に、団体戦に出場する機会があります。

（但し、学連側は、アクシデント対応のため、極力4～5人でのチーム編成をお勧めします。試合開始時点で3名のメンバーが揃っていない場合は棄権となります）

②原則として、土日祝日といった休日に試合を行いません。

従来の大会は平日開催が多かったため、授業との関連で参加できなかった選手も多いと思われませんが、休日開催することにより参加しやすくなります。

③休日の会場確保のため、大学の体育館を借用するなどします。

公共の体育館は、休日の借用が困難な場合が多いため、大学の体育館などを借用するなどし、出来るだけ休日開催に努めます。

（但し、最上位の試合は公共の施設を利用する予定のため、平日開催もあり得ます）

④出来るだけ1試合だけで終わらずに複数試合が出来るようにします。

従来の大会は単純トーナメントの試合が多く、1試合で終わってしまう選手が多く出ましたが、予選リーグ+決勝トーナメント方式などを採用し、出来るだけ多くの試合を経験してもらえるようにします。

⑤ブロック分けを行なうことにより、実力差がある試合を防ぎます。

あまりに実力差のある試合は、やっている選手本人も、見ている人も面白くありません。リーグ戦の所属部や、全日学での出場状況に応じたブロック分けを行ない、実力の近い選手同士の接戦を増やすようにします。

下位のブロックで勝ち上がったチームには、上位ブロックに参戦して腕試しをするチャンスもあります。

具体的には、当該年度秋季関東学生リーグ戦の編成による所属部で

Aブロック 1・2部で、メンバーに当該年度全日学出場者（単複いずれか1種目でも出場した者）、または当該年度全日学選拔出場者を1名でも含むチーム。

Bブロック 1・2部で、メンバーに当該年度全日学出場者（単複いずれか1種目でも出場した者）、または当該年度全日学選拔出場者を1名も含まないチーム。

Cブロック 3・4部のチーム。

Dブロック 5部以下のチーム（5部・6部・編成外）とし、

大会は、Dブロック→Cブロック→Bブロック→Aブロックの順に、約1ヶ月に渡って行ないます。（毎週末の土日に各ブロックが行われるイメージ）。

下位ブロックでベスト4以内に入ったチームは、上位ブロックに参戦する権利を得ます。

⑥エース対決が必ず実現する世界選手権方式を採用します。

強い選手同士による直接対決を増やすことにより、強化も図ります。

世界選手権方式（3人の出場による5シングルス3点先取制）。

A	B	C	A	B
X	Y	Z	Y	X

外国人留学生選手に関しては、1試合における起用は1名に限りませんが、起用された1名の外国人留学生選手が2点起用箇所（A・B・X・Y）に出場することもできます。外国籍選手が2ポイント起用できる大会は、今の日本国内にはほとんどないと思います。

「日本人も外国人も含めて、強い者同士の直接対決が必ず実現する。相手が誰であれ、ガチンコ勝負で勝たなければ勝ち上がれない」というシステムになっています。

⑦特典も豊富です。

B～Dの各ブロックで勝ち上がったチームには、各種賞品が贈られます。

Aブロックで勝ち上がったチームには、奨励賞（＝賞金）が贈られます。

優勝・5万円、2位・3万円、ベスト4・各1万円×2、計10万円。

男女総額20万円。

今まで、学生卓球界では、全日学選抜に賞金がつきましたは、関東学連では賞金付き大会はありませんでした。チームカップは関東学連初の賞金付き大会となります。

規約上の事業実施細則条文としては次ページの通りとなります。

さて、この新設大会の初代チャンピオンチームはどこになるのでしょうか？